

【草花の部屋】

シュウカイドウ (シュウカイドウ科シュウカイドウ属 Begonia grandis)

和名; シュウカイドウ (秋海棠) **別名**; ヨウラクソウ (瓔珞草) **英名**; hardy begonia

スミレ目 多年性草本

原産地; 中国

花言葉; 自然を愛す、恋の悩み、片思い、未熟

花の色; 白、桃



← 写真－1 シュウカイドウ

撮影日：2023 年 8 月 6 日

撮影場所：米原市醒ヶ井

地蔵川にて

撮影者：M さん

↓ 写真－2 シュウカイドウ

撮影日：2023 年 8 月 6 日

撮影場所：米原市醒ヶ井

地蔵川にて

撮影者：M さん



バイカモ(キホウケ科キホウケ属)の群落地として知られている、米原市醒ヶ井の地蔵川岸辺で見かけました。バイカモ撮影のため、川面近くの洗い場へ降りた際、川の護岸から川面に向かって、咲いていました。

シュウカイドウは、日本の各地で半野生化していますが、江戸時代に中国から渡来し、各地で栽培されたた種が野生化した帰化植物です。バラ科の海棠(カイドウ)に似た花を秋に咲かせていることから、秋海棠(シュカイドウ)の名がついたそうです。近年は同属の多くの種が持ち込まれ園芸用として栽培され、それらは主に「ベゴニア」と呼ばれていますが、本(亜)種は古くから定着していたため、ベゴニアとは呼ばれないそうです。

直射日光が当たらない程度に明るく、湿気の多い場所を好む多年草で、夏から初秋にかけて草丈 70cm 前後に生長します。

葉は、左右がやや非相称の偏心形で、縁には鋸歯があり、長い柄で互生し、シュウ酸が含まれます。

花期は 8～10 月で、茎の頂点から花序を伸ばし、長い花柄で垂れ下がり、淡紅色の花を咲かせます。雌雄異花同株で、雄花は上方に正面に向いて開き、中央に黄色く球状に集まった雄蕊が目立ちます。4 枚の花弁のうち左右の小さな 2 枚が花弁で、上下の大きな花弁のように見える 2 枚は萼です。雌花には下方に垂れ下がった状態で下方に向いて開き、中央の黄色い雌蕊は 3 つに分かれ先はらせん状になっています。雌花も雄花と同様の花を咲かせますが、三角錐状の子房を持ち小さな花弁が 1 枚だけのことが多いそうです。

花後には、楕円形の実を付け、実を付ける頃には地上部は枯れ、球根で越冬します。種子は多数できますが、自然状態では発芽しにくいそうです。秋、茎の上部の葉腋にできる無性芽(むかご)が地面に落ちて新しい株となります。

< ちょっと一言 >

*日本に自生する種としては、沖縄県の八重山諸島にコウトウシュウカイドウとマルヤマシュウカイドウがあり、いずれも森林内の谷間周辺に見られ、コウトウシュウカイドウは茎が立って木立状になり、マルヤマシュウカイドウは茎が短く、葉は根出状です。